

渡辺ハウジングOBの皆様と  
未来のお客様にお届けする

# やすらぎ通信

渡辺ハウジング  
03-3959-8743



夏空に入道雲がわき、太陽のまぶしい季節です。

梅雨は明けたものの、湿気を多く含んだ暑さが続き、心身ともに早くも夏バテ状態です。

皆さんは如何お過ごしでしょうか？

水分補給、十分な睡眠、バランスの良い食事などを心掛けるとともに、クーラーの掛け過ぎにも注意して、お元気で過ごしてくださいね。

子供たちが楽しみにしていた夏休みが始まり、ご家族一緒に過ごす時間が増える喜びの反面、



お母さんたちは、いつもより少し忙しくなるかもしれません。けれど子供たちの成長を見守る貴重な時間になると思います。帰郷やレジャーに出掛けられるご家族も多いかと思いますが、この時期は水に関する事故も多くなりますので、事故やケガには十分気を付けて楽しい思い出を増やしてくださいね！



建築のいろはにほへと・・・？

## 【地盤保証とは？】

地盤保証とは、地盤のトラブルによって住宅に損害が発生した場合に、建物や地盤の修復費用等を保証する制度です。

「基礎や外壁に亀裂が見つかった」

「ドアの建て付けが悪くなりドアが閉まらない」

「窓の鍵がかからない」等のトラブルが起きた場合は、まず建築工事に問題があると思うのではないのでしょうか。しかし、手抜き工事もなく完成した建物であっても、このようなトラブルが起こる可能性があります。その原因の一つに「不同沈下」が考えられます。

「不同沈下」とは、地盤が建物の重さを支えることができず、建物が不均等に沈下していく現象のことです。このようなトラブルが起きた時のリスクに備えるのが「地盤保証」です。

地盤保証は、不同沈下や液状化などに伴う建物の不具合について原状回復工事を行い、その間に仮住まいが必要な場合には、その費用を保証するものです。

地盤保証の適用を受けるには、まず地盤保証機関に加入している建築会社を選ぶ必要があり、手続きは建築会社を通じて行われます。

一般的な流れとしては、建築会社の申請を受けて、着工前に地盤保証機関が地盤調査を行います。そして地盤保証機関の調査結果に基づき、その地盤の状況に適した基礎の仕様や地盤改良工事を提案、実施します。

さらに万一、地盤のトラブルによって施工された建物に被害が発生した場合は、地盤保証会社が、「引渡しから10年間、限度額5000万円まで」等の内容で保証をします。ただし、保証内容や保険料などは保証機関によってそれぞれ異なるので注意が必要です。



## 地蔵盆

地蔵盆という言葉をご存知ですか？

私は残念ながら知りませんでした。古くから伝わる日本の風習のひとつとして主に京都を中心とした近畿地方や北陸、信州で民間信仰として広まったといわれています。

町内のお地蔵様をお祀りし、子供たちの健やかな成長と幸福を祈る催しで、8月23、24日の地蔵菩薩の縁日を中心に行われます。

京都では、各町内ごとに地蔵尊の前に屋台を組み、花やお餅などのお供え物をし、子供たちはみんなでゲームを楽しんだり、お菓子をいただいて過ごすそうです。



関東ではなじみのない方も多いと思いますが、地域ごとにいろいろな行事があるのでですね。

## 笑顔に救われた悩み



子供を育てる親にとって、成長の時々に感じる思いは、さまざまです。嬉しいこと、楽しいことはもちろん、悲しいこと、辛いこと・・・たくさんありますよね。

今回は、悩みをずっと抱え続けていた母親が、ある一人の女性に救われたというお話を紹介します。

お母さんには、ある悩みがありました。

それは、もうすぐ 3 歳になる息子がうまく言葉を喋ることができないこと。

ある日、お母さんはその悩みを、いつもバス停で出会うよその子供のお母さんに思い切って相談したので

子供が 3 歳を目前にしているのに「二語文」\*が出ない。心配になり、専門医にもいろいろな検査をしてもらったけれど、今のところ病名がつくようなものではないとの判断。でも親としては不安でしかたがなかったのです。

いつもバス停で一緒になるお友達のお母さんが子供に話しかけてくれているのを見て、思い切って告白しました。

「うちの子、お喋りができないんです。だからせっかく声を掛けてくれたのに、答えられなくてごめんなさい」って。

そしたらそのお母さん、「大丈夫、大丈夫。いつか喋れるようになるよね～。言ってることはちゃ～んとわかっているもんね」と笑いながら子供の頭を撫でてくれた。

その日以来、そのお母さんは息子に「バイバイ」と声を掛けてくれたり、ハイタッチをしてくれるようになりました。



いつもよりたくさんたくさん声を掛けてくれるようになりました。



そして今日は、バス停まで子供と手をつないでいってくれました。

そんなことがあった後のある休日、息子と二人で近所の散歩に出掛けました。



その時です。

息子が「あっち、行く」と私の手を引っ張ったのです。初めて聞く彼の二語文に嬉しくて思わず涙が・・・。

ありがとう、あなたが言った通りでした。

いつも笑顔で接してくれたこと本当に感謝しています。

子供と向き合っただけで必死になっている私を決して追い詰めず、いつもいつも笑顔で大丈夫、大丈夫と言ってくれたあなたのおかげです。

子供だけでなく私自身がいつも救われていました。

あなたのように、やさしい笑顔で他の誰かの役に立てるように私も頑張ります！！

\*「二語文」とは、1 歳半～2 歳半くらいの幼児が話す言葉で、「わんわん、いっちゃった」とか「プー、きた」…等々単語と単語を組み合わせ、文章として表現すること。



### 「編集後記」

ここにきて、選挙演説の声にかき消されていた蝉の声が聞かれるようになり、暑さが一段と増すようです。

今回の選挙では、初めての女性都知事が誕生し社会状況の変化を感じるとともに期待が膨らみますね。

難しいことは判らないけれど、子供も大人も皆が安心して暮らせる社会になってくれることを心から願います。

さて、当社では今年も「夏休み・家づくりなんでも相談会」を開催致します。(詳しくは HP をご覧ください)

普段は時間が取りにくくて・・・という方も、この機会に是非お出掛けください。お待ちしております！！

今月号もお読みいただき有難うございます。

※「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

また、ご不要の方もご一報ください。

編集責任者

渡辺 田鶴子

